

特 275  
379



昭和  
小學  
唱歌  
五十  
曲集



全



故郷の廢家

犬童信藏作歌

I  
幾年ふるさと来て見れば  
咲く花鳴く鳥そよぐ風  
門邊の小川のさゝやきも  
なれにし昔に變らねど  
荒れたる我家に

II  
住む人たえてなく

昔をかたるかそよぐ風  
むかしをうつすかすめる水  
朝夕かたみにてをとりて  
あそびし友人今何處  
淋しきふるさとや  
さびしき我家や

秋の夜

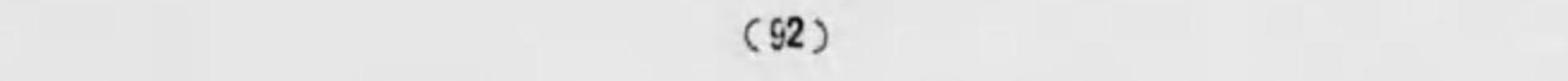
(春を待つ同曲)

犬童信藏作歌

I  
すだく虫の聲にも  
秋のあはれひゞきて  
しづかなりや月の夜  
さやかなりや秋の夜  
わたるかりのかすはよめど  
止まる小田は何處ぞ  
胸を覆ふ雲もはれて  
心清しやははれ

II  
「大宮にはねうちかはしとぶかりの  
數もよむべき秋の夜の月」

葉末装る眞玉も  
秋の光やごして  
しづかなりや月の夜  
さやかなりや秋の夜  
風をさそふ笛のひゞき  
誰に寄する調ぞ  
胸のうれひ露と消えて  
心すがしやははれあはれ





昭和三年十月十日印刷  
昭和三年十月五日發行

實費貳圓

編纂兼  
發行者

原田彦四郎  
靜岡市東靈匠町五二

印刷者

馬場恒三  
靜岡市横内町六三